

たろみ鉄道のラッセル車の秘密を探った



私がラッセル乗車会や、直接インタビューを行って知った。あっと驚くたろみ鉄道のラッセル車の秘密を紹介します。

秘密1. 神岡鉄道士んで使っていたのをゆずってもらったので超本格的雪国仕様です。

秘密2. 実は床下に転車台があり、自ら方向転換ができます。床下の平らなのが転車台です→

秘密3. 雪がなくても、安全確認車や、トンネル検査の仕事をしている。

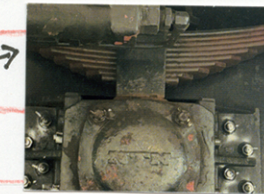
秘密4. 除雪装置を他に連結機をつけると、貨物を牽引して走れます。

秘密5. 足元が草バネ(鉄板を積んであるのみ)なので乗り心地が悪い。

秘密6. 自動空気ブレーキなので、ブレーキの効力が非常に弱いです。黄色の除雪機の下の白色は黒色の穴2つが連結機のつなぎ目

秘密7. エンジンは走行用とロータリー用の2つの、2います。

秘密8. 新車当時3600万円でしたが、現在は1億円ほどだとか。草バネ→
そんなたろみ鉄道エン。平成17年に積雪175cm、運休 $\frac{1}{2}$ ~ $\frac{1}{4}$ を経験し、購入に至ったそう。



ラッセル新聞 たろみ鉄道大特集号

インタビューコーナー R6.8.13

たろみ鉄道の取締役・運輸部長である道合エンがインタビューに答えてくれました。
私「ラッセル車を運転したい。1番うれいことは？」
道合エン「大雪が降りて一面真っ白な世界で、よく見るとレール2本分だけ盛り上がっている。そこをラッセル車で除雪し、無事レールが走るようになる瞬間」
私「では1番つらい時は？」
道合エン「除雪作業は、深夜に6時間ほどかかるので寝たい事ですね。ラッセル車で北上し、折り返した。各駅のホーム、階段は手動で雪のけします。特に高尾駅の長い階段がつらいです」
私「最後に、ヤバい事ってありましたか？」
道合エン「ロータリー側を先頭に走っていた時、夜間なので線路に鹿が入って来て、ロータリー側を走らなくてはいけなかった。取り出す作業がヤバかった」

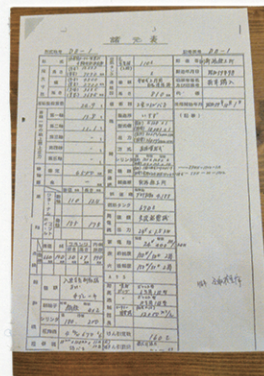
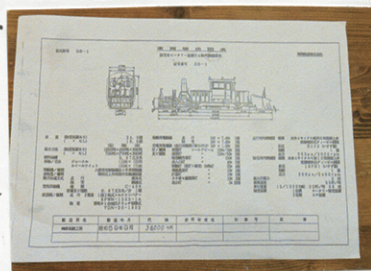
ありがとう
ございました



編集 大橋虎三郎

カメラ ギャラリーコーナー

車両表
から
形式は
DB-1
です。



→ 3番元表の
重さ24.9t、エンジン1台



→ ラッセル体験会が新聞に
取り上げられた。

ロータリー
エンは
開くと
↑



→ エンジン
左右に
首が

ラッセル乗ったよ R6.8.15

たろみ鉄道エンがついにあの秘密につつまれたラッセル車の体験会をしてください、参加してきました。
まず、車庫でロータリー側、ラッセル側の除雪機を中心に説明を受けました。
ロータリーが動いて開いて迫力すごい！
いよいよ乗車の時です。垂直のハシガを上ると人が4人もいた満員になりそう狭い車内です。まず運転席は横向きなんですね！。窓に並んだ操作パネル、窓は旋回式です。
走行となりましたが、エンジン音は大それた。とほろろスルースな事にも驚きました。



乗れた